

Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告  
- Continuing Education Courses に参加して -

千葉大学大学院薬学研究院 竹村 晃典

このたび、私は日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業の一環として、第 62 回 SOT 学術年会 (2023 年 3 月 19 日～23 日) で開催された教育コースのうち、指定セミナーとして「Beyond the Powerhouse: Investigating Mechanisms of Mitotoxicity」ならびに「Checking in on Adverse Outcome Pathways (AOPs): Evolving Development, Evaluation, and Application」を受講させて頂きました。今年の SOT はテネシー州ナッシュビル Nashville Music City Center で開催されました。ナッシュビルでは雪が降る程に冷え込んでおりましたが、音楽の街ということもあり街中は非常に賑わっておりました。それに加えて 2019 年以来の完全オンサイト開催もあいまって、多くの参加者おり会場内は非常に活気がありました。

指定コースの Beyond the Powerhouse: Investigating Mechanisms of Mitotoxicity ではミトコンドリアの生体内での役割という基礎的な講義から始まり、様々な観点 (鉄イオン、エピゲノム、炎症反応、腎毒性) からの毒性発現機序の講演がなされました。私自身もミトコンドリアに関する研究を行っておりますが、改めてミトコンドリア毒性と一言で表現しても様々な観点からとらえる必要があることを再認識いたしました。Checking in on Adverse Outcome Pathways (AOPs): Evolving Development, Evaluation, and Application のコースでは AOP 開発の流れについて様々な講師が説明し、本コースの中盤では実際に AOP-Wiki を使用しながらデモンストレーションする時間が組み込まれており、教育コースという名にふさわしいプログラムとなっております。完全オンサイトの開催ではありましたが、一部のシンポジウム (教育コースは対象外) では講演内容がそのまま保存され、専用アプリから再度視聴できる体制が整えられており聞き逃した箇所ならびに、スケジュールが被り聞くことができなかったシンポジウムを視聴できるなど非常に充実した学会となっております。

最後に、私自身 SOT に参加するのは初めてでありましたが、このような貴重な機会をくださった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様には深くお礼を申し上げます。

